## 日本のNGO「アムダ」

# アジアの医師が活躍

## クリニック、巡回医療を実施

日本で生まれた世界的なNGO・アジア医師連絡協議会（AMDA・アムダ、本部・岡山県）が、地震・津波支援のためアチェ州バンダアチェで医療活動を行っている。日本の医師だけではない。日本留学したインドネシア人医師、カンボジア内戦時代に生まれたカンボジア人の青年医師、カナダから駆け付けた医師、台湾出身の看護士らが、仮設クリニックやカンプンで巡回医療に当たり、国際援助の対象から外れがちなアチェの人々にきめ細かいサポートをしている。

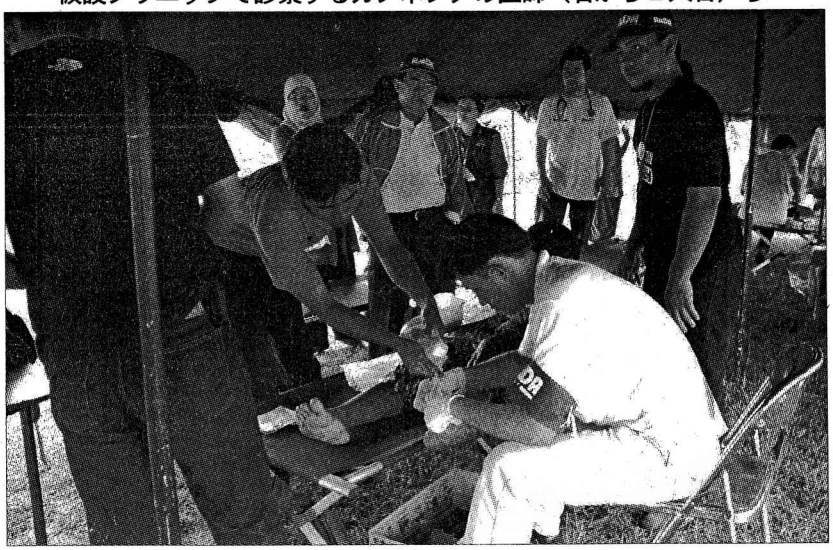
（バンダアチェで阿部弘賢）

今回の地震・津波災害で、アムダはスリランカとインドでも支援活動を行っているが、インドネシアでは「震源地に近く、最も被害の大きい」（金山夏子調整員）バンダアチェで医療活動を展開。先月二十八日から先遣隊がバンダアチェに入り、七日から市内南部に仮設クリニックを開設し、十三日からは午後に市郊外の村を対象にした巡回医療を開始した。

**■1日60人を診察**

巡回医療では、医師らスタッフ十人ほどが車でカンプンを訪れ、二時間ほど診察を行う。アムダが対象にするのは、高血圧や糖尿病などで通院していたが、地震や津波で病院が崩壊したため、薬を処方してもらえなくなったような間接的な被災者。金山調整員は「国際支援が被災者のキャンプに集中しているので、われわれはそこからこぼれ落ちる二次被災者をサポートしている」と話す。

仮設クリニックで診察するカンボジアの医師（右から2人目）ら



二時間ほどの診療で多いときで六十人を診察。手持ちの薬がないこともあるため、翌日も同じカンプンを訪れ、再診を行っている。

**■テレビ見てアチェ行き志願**

十六日から新たに日本から高橋徳医師、大城七子看護士、石沢睦夫調整員の三人が入り、のべ二十八人が活動を行っている。

福井県の済生会病院で研修医をしている芳野圭介さん（二八）はテレビでインドネシアの地震・津波被害の状況を知り、被災者の役に立ちたいと思いアムダの活動に参加した。「病院の上司に相談したら、アムダを紹介してくれた。研修医なのでいろんな病棟を回っているのがここで役に立っている」と話した。

芳野医師によると、患者で多いのは、慢性病のほかにストレスからくる血圧の上昇やどうきや息切れなどの症状という。現在の支援チームは、二十一日までバンダアチェで活動を行うが、その後はアムダ・インドネシアの主導で支援内容を決定する予定。金山調整員は「緊急支援から復興支援へと徐々に移行しているが、アムダとしてはそのつなぎ目をフォローアップしていきたい」と話している。

**■アジア版「国境なき医師団」**

アムダは岡山県で開業医をしている菅波茂氏が一九八四年に設立。現在、世界二十九カ国に支部があり、国際人道支援活動を行う。コソボ紛争で世界的に有名になったNGO「国境なき医師団」のアジア版的存在。

またアムダの支援活動では、ホテル・日航ジャカルタが医師らのために無料で部屋を提供するなどの協力も行っている。